

Hornel Programme 2021 at City Art Centre, Edinburgh

1月14日(木) 14時00分～

<オンラインレクチャー>

The Japan/Glasgow Connection : 日本・グラスゴウの知られざる歴史

講師 矢崎早枝子氏からのご紹介文

19世紀後半以降の開国・近代化の渦の中、グラスゴウは日本の近代化に多大なる貢献をしました。幕末にロンドンに留学した長州五傑の一人、山尾庸三は当時世界有数の工業都市グラスゴウで工学を学び、日本最初の技術者養成機関である工部大学校（東京大学工学部前身）の創設に尽力、初代校長のヘンリー・ダイアーはグラスゴウ大学出身です。工部大学校は今日の日本の産業技術の礎を築き、工業発展に多大な役割を果たしました。またダイアーの人脈をもとに日本政府から優秀な生徒がグラスゴウ大学に送られ（フォース鉄道橋の建築工事に監督係として参画した渡邊 嘉一はその一例です）、日本のウイスキーの父と呼ばれる竹鶴政孝もグラスゴウ大学で有機化学・応用化学を学びました。

更に日本とグラスゴウの関係は産業だけではなく芸術の分野にも及び、1878年には日本政府がグラスゴウ市に千以上の工芸作品（陶磁器・茶道具・和紙・織物・反物など）をグラスゴウの工業製品と引き換えに送りました。グラスゴウ・ボーイズのエドワード・ホーネルとジョージ・ヘンリーが日本へ旅し日本の装飾デザインを学んだのはその後のことです。またグラスゴウ出身の建築家・デザイナー、チャールズ・レニー・マッキントッシュが日本や東洋のデザインから多大なインスピレーションを受けたのはご存知の通りです。

トークでは、あまり知られていませんが今の日本を語る上で重要な日本とグラスゴウの多岐に渡る関係についてお話しする予定です。